資料②

第64回
宮崎海岸市民談義所



日時：令和８年１０月４日(日)13時半～16時
場所：宮崎市佐土原総合支所２階研修室
国土交通省宮崎河川国道事務所・宮崎県

本日の議事

本日の議事

1. 体制・手順・条件の確認
2. 市民談義所の振り返り
3. 対策の効果検証 【談義】
4. 住吉エリアの総合的な構想 【談義】
5. スケジュール

1. 体制・手順・条件の確認

（1）宮崎海岸トライアングル

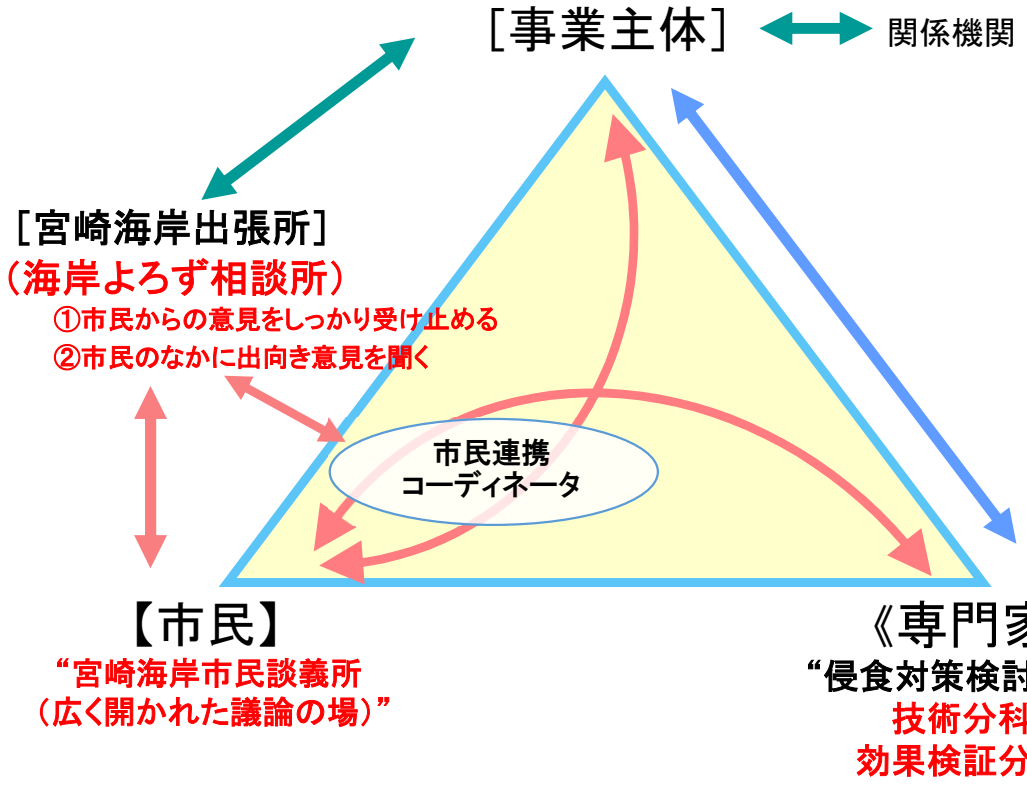
（2）宮崎海岸ステップアップサイクル

（3）検討手順

(1)宮崎海岸トライアングル

宮崎海岸トライアングル

宮崎海岸の砂浜の保全を目的として、行政・市民・専門家が三者一体となって進めていきます。



事業主体
市民からの多様な意見を反映した案（複数）を専門家に提示し、検討を依頼する。また、専門家からの助言をもとに、責任ある意思決定をする。

専門家
事業主体からの案に対して、事業主体に技術的・専門的な立場から助言する。

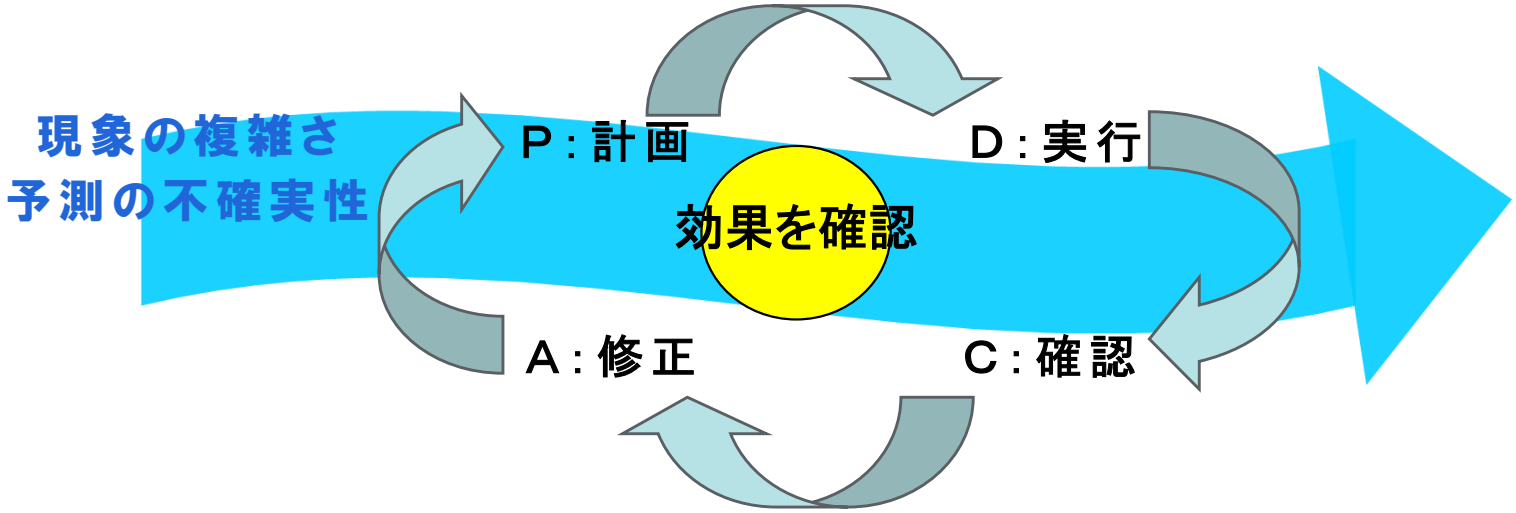
市民
お互いを理解・尊重しながら多様な意見を出し合い議論を深める。

市民連携コーディネータ
市民からの多様な意見を取りまとめ、事業主体に伝える。また、事業主体が専門家に正確に伝えているか、専門家がきちんと検討しているか中立・公正な立場からチェックする。

(2)宮崎海岸ステップアップサイクル

宮崎海岸ステップアップサイクル

自然現象の複雑さと社会環境・自然環境の変化に対する未来予測の不確実性を踏まえ、どのような方法をとればよいかを検討・実施し、その方法の効果を確認しながら、修正・改善を加えて、対策を着実に進めていきます。



（3）検討手順（ステージ進行図）

第二部 計画見直し・実施（R5～R19）

：実施済（R8.10時点）
：実施中
：これから実施

ステップアップサイクルによる確認（R5）
【見直しの可能性がある事項】
・漁業や利用、景観・環境に配慮
・等深線変化モデルの対応
・気候変動の影響の確認

侵食対策の更新案（R5）【検討をスタートする条件】
・小規模な施設10基程度（既設3基含む）
・礫を活用した養浜の実施

保全目標の検討（R7・R8）
・浜幅50mの妥当性の確認

各エリアの整備の方向性（R7）
・エリアごとの方向性の検討

全体計画の方向性（R6）
・4つのエリアに区分
・数値モデルも参考に効果確認
・動物園東～大炊田エリア（小突堤3基＋養浜）は目標達成が見込める
・住吉エリアは目標も含めて再検討が必要

全体計画の策定（R8～9）
・気候変動の影響への対応

住吉エリアの検討（R7～9）
動物園東～大炊田エリアの検討（R7～9）

2基目の小突堤の検討（R7）

1基目の小突堤（先行着手）の検討（R6）
・動物園東エリアを早期に保全
・一刻も早く砂を抑制するために先行着手を検討

全体計画の実施（R10～）（住吉エリアの対策および3基目の小突堤含む）

2基目の小突堤の実施（R9～）
・2基目の施設を実施

1基目の小突堤の実施（R7～9）
・動物園東エリアの南側に小突堤を設置

対策の効果・影響を確認

養浜の検討・実施（初期養浜，維持養浜，連携による効率化，礫の活用など）

ステージ4（方針検討） | ステージ5（計画検討） | ステージ6（対策実施）

2. 前回の市民談義所の振り返り

（1）開催状況

（2）コーディネータのまとめ

(1)開催状況

□開催日時:令和8年8月10日(月)19時～21時

□場　　所:佐土原総合支所2階研修室

□参加した市民:15名

□議事概要:

1. 体制・手順・条件の確認
2. 市民談義所の振り返り
3. 第26回委員会の報告
4. 談義
5. スケジュール



これまでの意見の確認と分類作業の様子



事務局による説明



会議に用いたこれまでの意見の一覧

(2)コーディネータのまとめ

・いろいろなテーマを取り扱った談義をこれからもこの談義所でできたらよいと思う。

・今日の談義所では、前回委員会での議論を報告し共有するとともに、これまでの談義所での意見をカテゴリーごとに分け、その意見を振り返りながら、聞けていなかったことなどを質問してもらい、事務局とのやりとりにより理解を深めることができた。

・総合土砂管理については、大きな取り組み（自然に河口から土砂が供給される）は即時の実行が難しいが、小さな取り組み（ダンプトラックで河道から海岸に土砂を運ぶ）は既に実施しているということを共有した。

・これから住吉エリアの対策を考えていく時には様々な条件が考えられるが、条件をみんなで共有した上で、何を守るのか、守るためにはどういう対策が必要かを継続して議論していくことを共有した。

・神奈川県茅ヶ崎海岸の事例紹介があったが、宮崎海岸の対策を考える上で参考になる他海岸の事例について、みんなで理解を深めるような機会があると、いろいろなアイデアが市民から出てくるのではと感じた。

・突堤については、コンクリートブロックで覆わず石をむき出しのままにしてみては、という新しい構造の提案もあった。談義所だけではなく、小さな提案もできるような小さなコミュニケーションの場を作ることも重要と感じた。

・海を舞台にしたまちづくりも考えながら、どのように海岸侵食対策事業を進めていくかについて、ビジョンや将来像などを市民と話し合い、具体的な目標に落とし込んでいく作業が今後重要になると感じた。

3. 対策の効果検証 【談義】

(1)全体フロー

(2)対象とする工事と調査

(3)これまでの工事の概要

(4)令和7年度の調査の概要

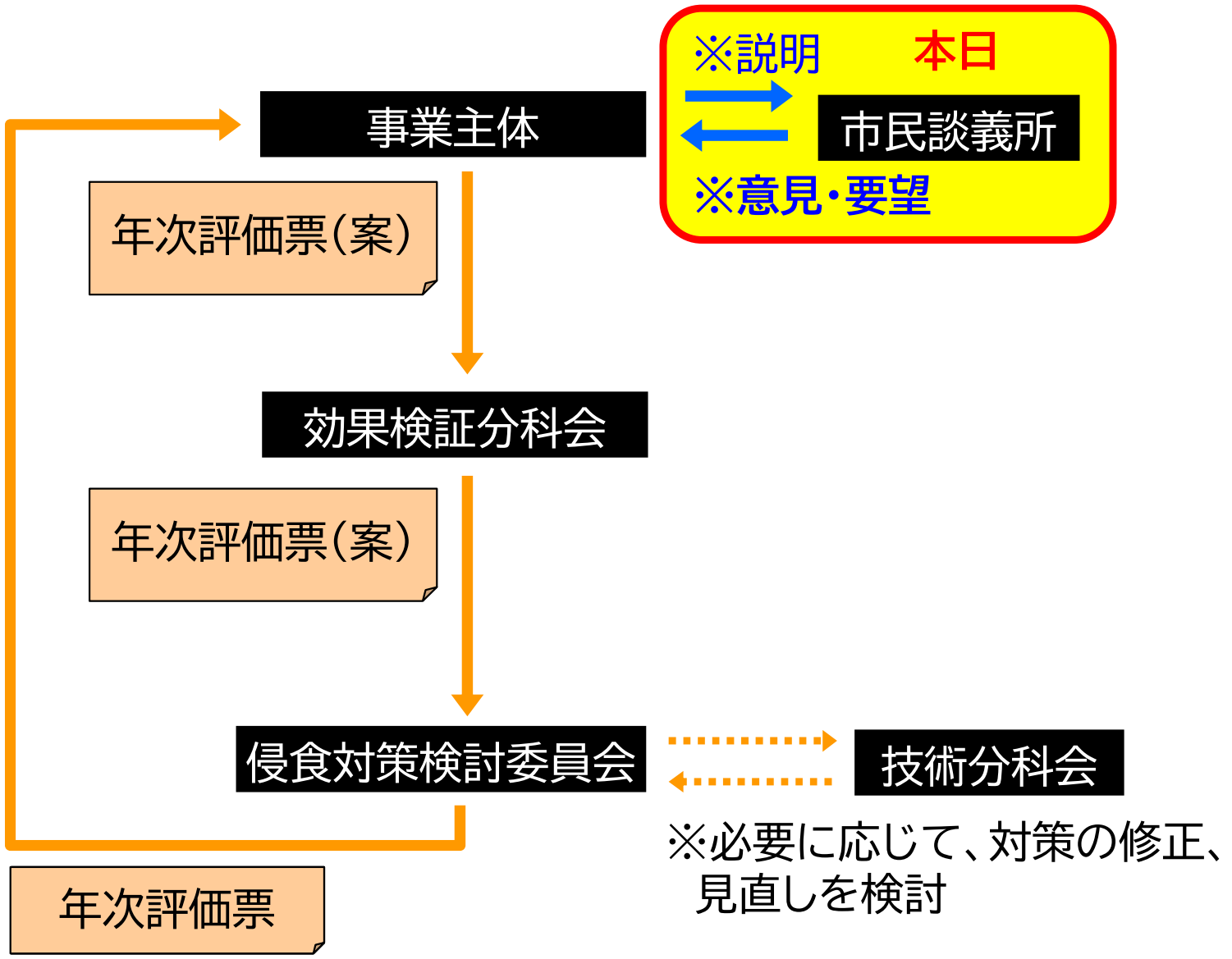
(5)調査結果

(6)対策の評価のポイント

(7)談義の項目と進め方

(1)全体フロー

・1年に1回、対策の効果や影響などを調査結果を用いて評価する
・本日は事業主体が評価をした内容を説明し、市民からは意見・要望などを伝える

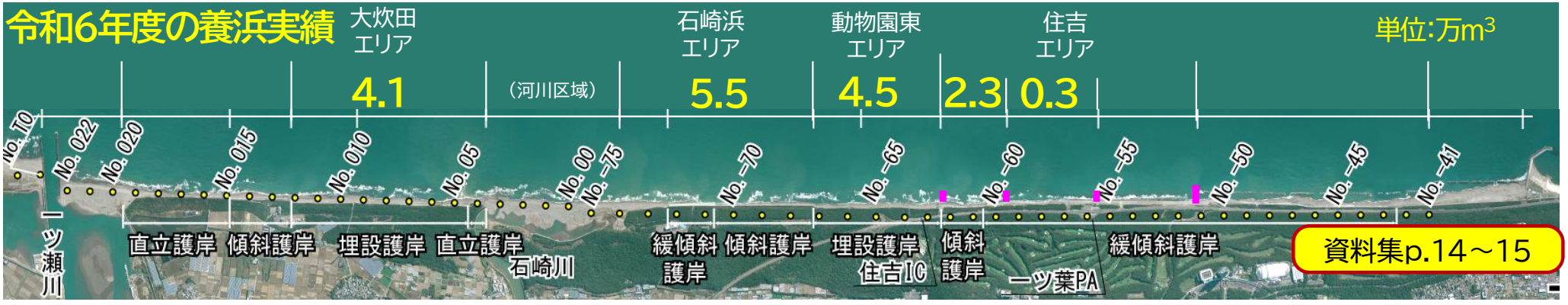


(2)対象とする工事と調査

・1年前(令和7年度)に実施した調査結果をもとに、2年前(令和6年度)に実施した工事(養浜:約17万m³)について効果や影響を評価することを基本とする

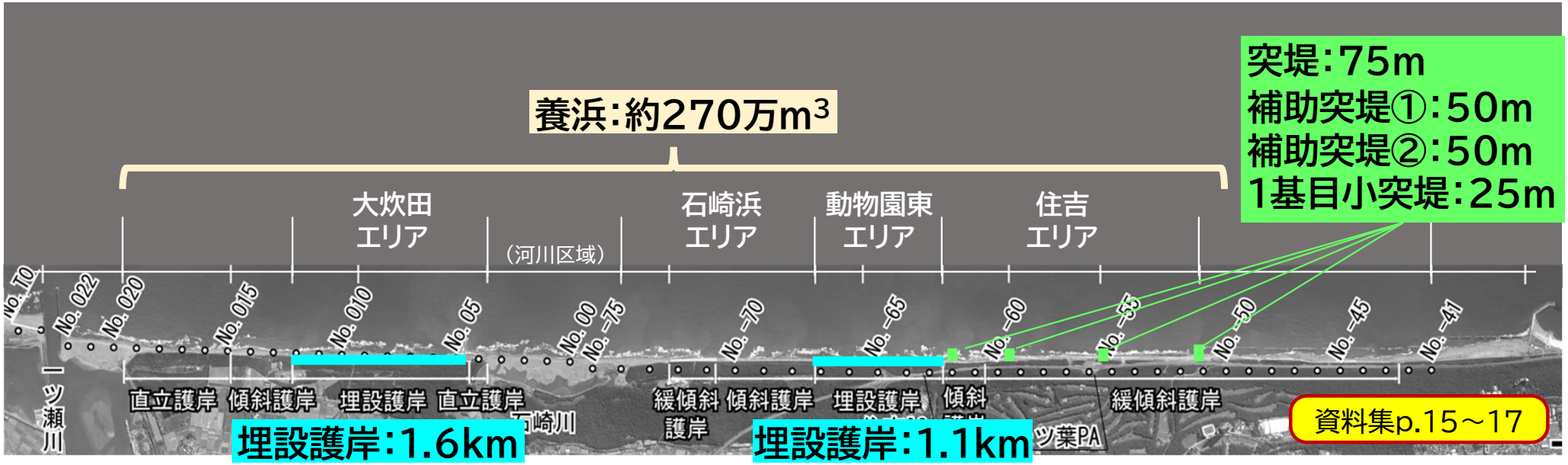
・ただし、令和6年度以前に実施した工事(次ページ参照)の効果や影響も含まれる

	令和5年度以前	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降
工事					
調査					
調査結果の整理分析					
市民談義所				本日	
効果検証分科会					



(3)これまでの工事の概要

対 策	令和7年度までの工事内容		備 考
	数 量	時 期	
養浜	約270万m³	H20年度～R7年度	R8年度も実施中
突堤	突堤:75m	H24～H25年度	1基目小突堤(計画堤長50m)は、R8年度も施工中
	補助突堤①:50m	H28～H30年度	
	補助突堤②:50m	H28年度	
	1基目小突堤:25m	R7年度	
埋設護岸	動物園東:1.1km	H26～H30年度	R7年度に全線でサンドパックで整備完了
	大炊田:1.6km	H25年度	



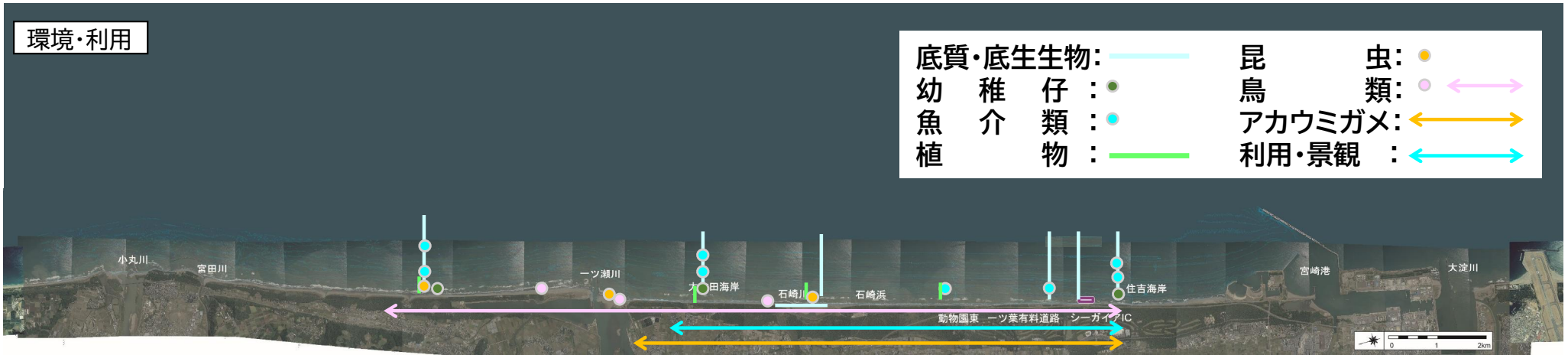
(4)令和7年度の調査の概要

調査項目	
海象・漂砂	潮位
	波浪、流れ
	風向・風速
測量	測量
	カメラ観測
	施設点検
目視点検	巡視

調査項目		
環境・利用	底質	養浜材
	幼稚仔	幼稚仔
	底生生物	底質・底生生物
	魚介類	ｻｰﾌﾈｯﾄ、漁獲
	植物	植生断面
	昆虫	任意採集など
	鳥類	定点観察など
	アカウミガメ	上陸状況など
	利用	巡視
	景観	巡視
	市民意見	市民談義所など

資料集p.18





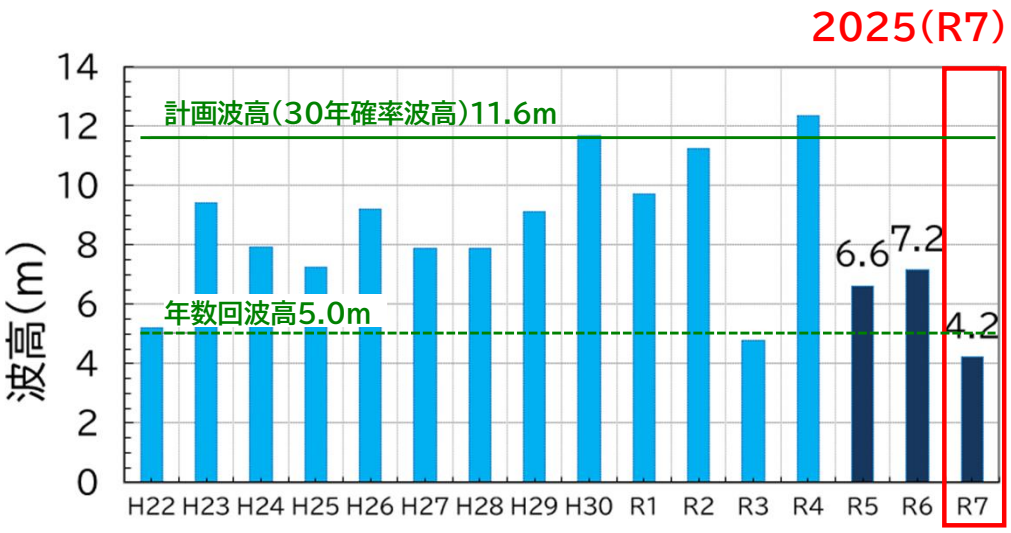
(5)調査結果　1)波浪

詳細な解析結果は資料集に掲載

・最大波高は4m程度であり、計画値(11.6m:30年確率波高)よりも大幅に小さい

・砂を動かす強さの目安となる波の総エネルギーも小さい

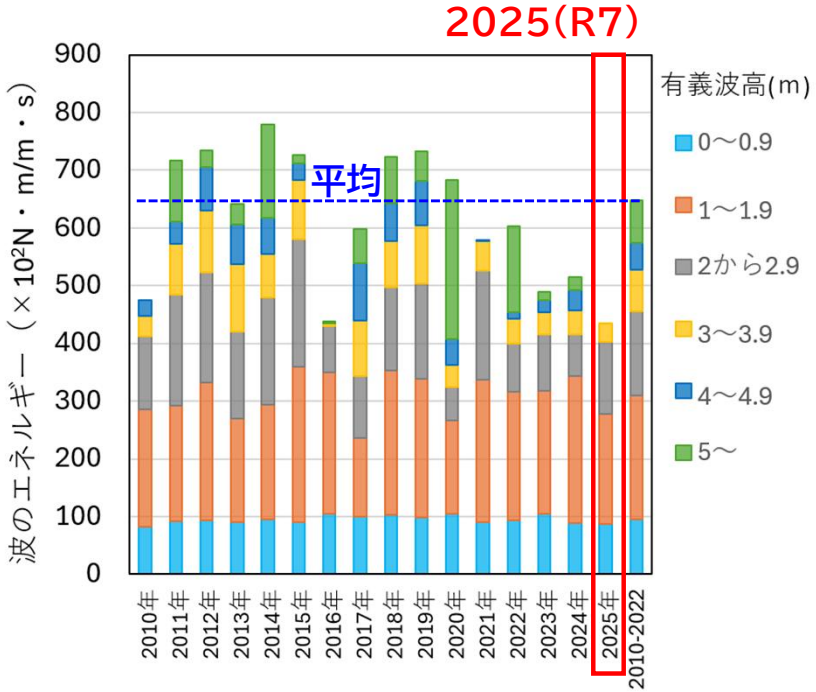
●最大波高



・ネダノ瀬の波浪観測データ(1時間毎)を集計し、1年間の最大の有義波高を抽出

資料集p.22

●波の総エネルギー



・ネダノ瀬の波浪観測データ(1時間毎)を集計し、1年間の波のエネルギーを算定

・「波のエネルギー」は、土砂を動かす強さの目安であり、大きいほど土砂が多く動く

資料集p.23

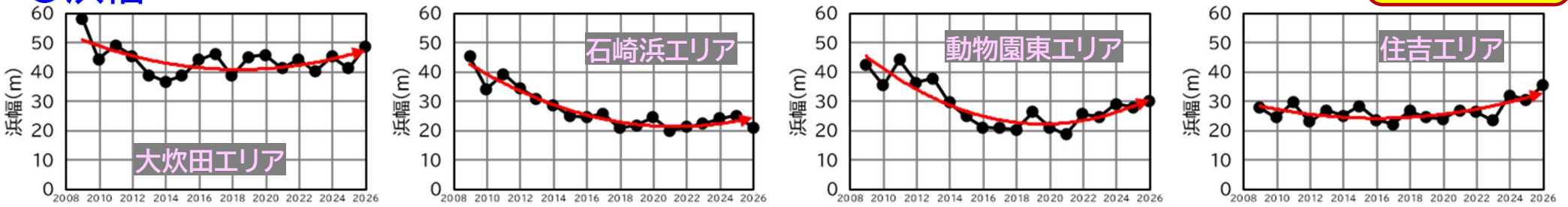
（5）調査結果　2）地形

詳細な解析結果は資料集に掲載

・ほぼ全域で浜幅は安定もしくは前進
・住吉エリアではやや土砂が増加しているが、住吉エリア以外では土砂は減少

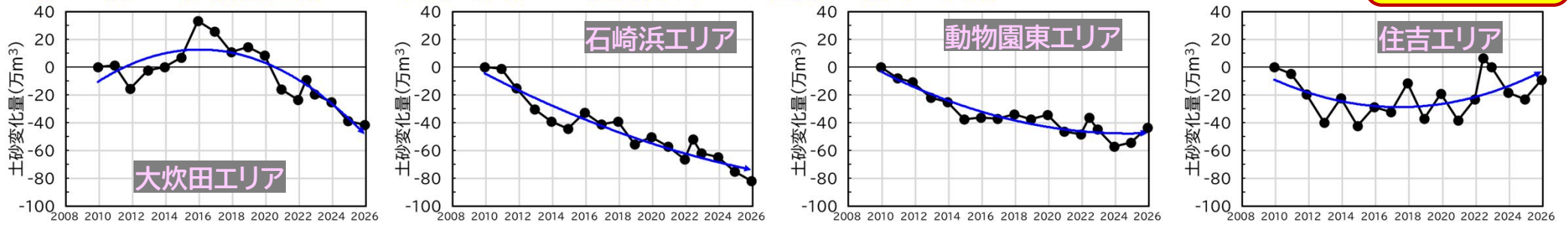
●浜幅

資料集p.27



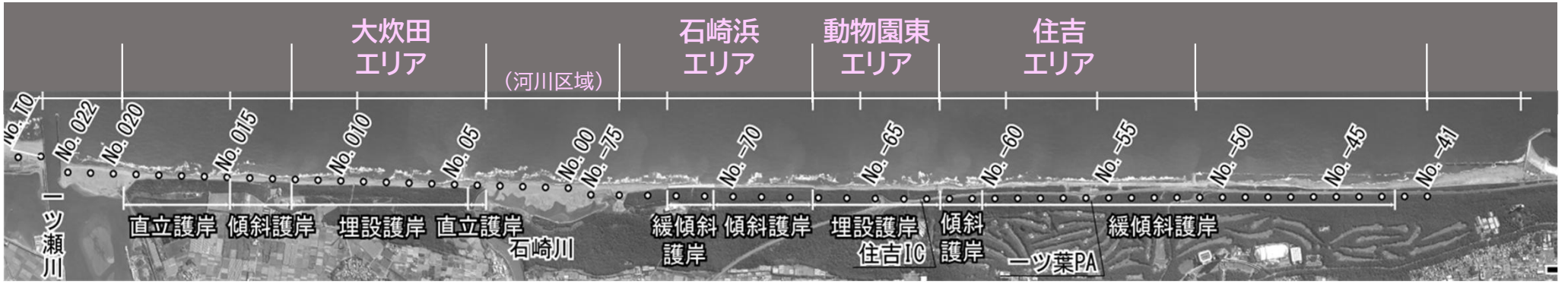
●土砂の変化量（陸上の砂浜～沖合1km程度（水深10m程度）の範囲を集計）

資料集p.28



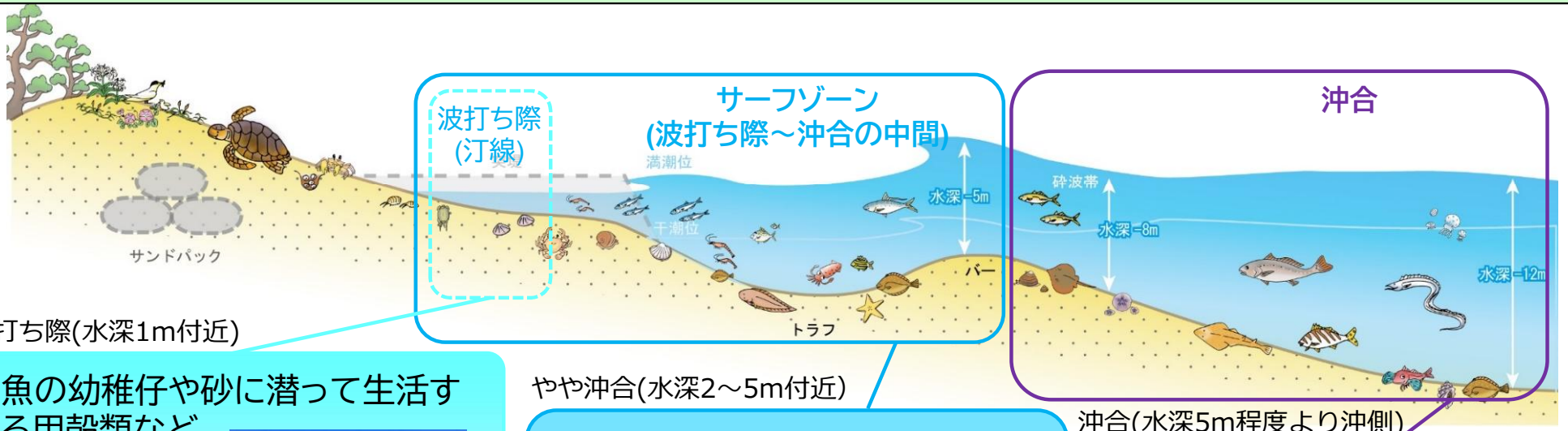
・毎年冬季（12月頃）に実施している測量データを用い、エリアの平均浜幅、土砂変化を算定
・矢印は多項式（二次）の近似曲線

平面的な地形変化は資料集p.29



(5)調査結果　3)環境　①海域

・魚介類・幼稚仔等調査の結果、海域ではこれまでと同様に多様な生物(サーフゾーン・沖合とも約100～120種)を確認しており、種の減少や増加などの顕著な影響は確認されていない



波打ち際(水深1m付近)

・魚の幼稚仔や砂に潜って生活する甲殻類など



幼稚仔魚・甲殻類等



潜砂性のアミ類
(シキシマフクロアミ)

【突堤や離岸堤】
・ブロックの表面で生活する貝類・カニ類など



イボニシ



ショウジンガニ

やや沖合(水深2～5m付近)

・幼魚～大型魚、餌となるアミ類などの小型甲殻類
(約100～120種の生物)



幼魚(サッパ)



大型魚(ヒラメ)



アミ類

・生物にとっての餌場、隠れ場、育つ場となっている

沖合(水深5m程度より沖側)

・多様な魚類、甲殻類、貝類など
(約100～120種の生物)



魚類(マダイ)



甲殻類(ケブカツノガニ)



貝類(テングニシ)

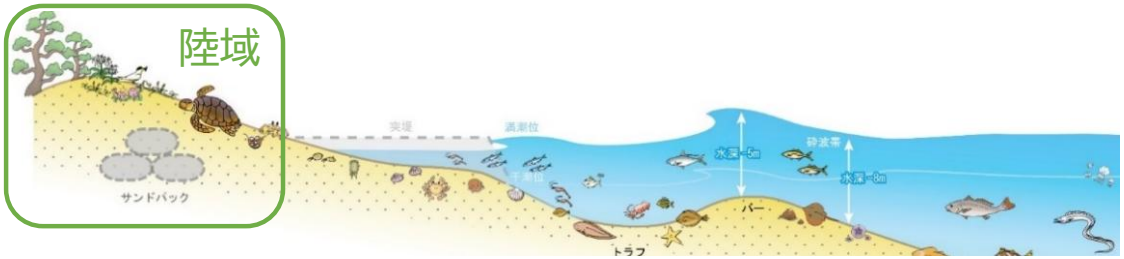


ヒトデ類(ヒラモミジガイ)

・確認種の約5割はサーフゾーンと共通

(5)調査結果　3)環境　②陸域

・陸域では安定した砂浜では海浜植生がみられるが、陸生植物も見られる

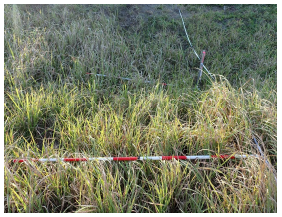




調査年:2022(R4)～2025(R7)年　調査時期:10月



ギョウギシバ（養浜土上）



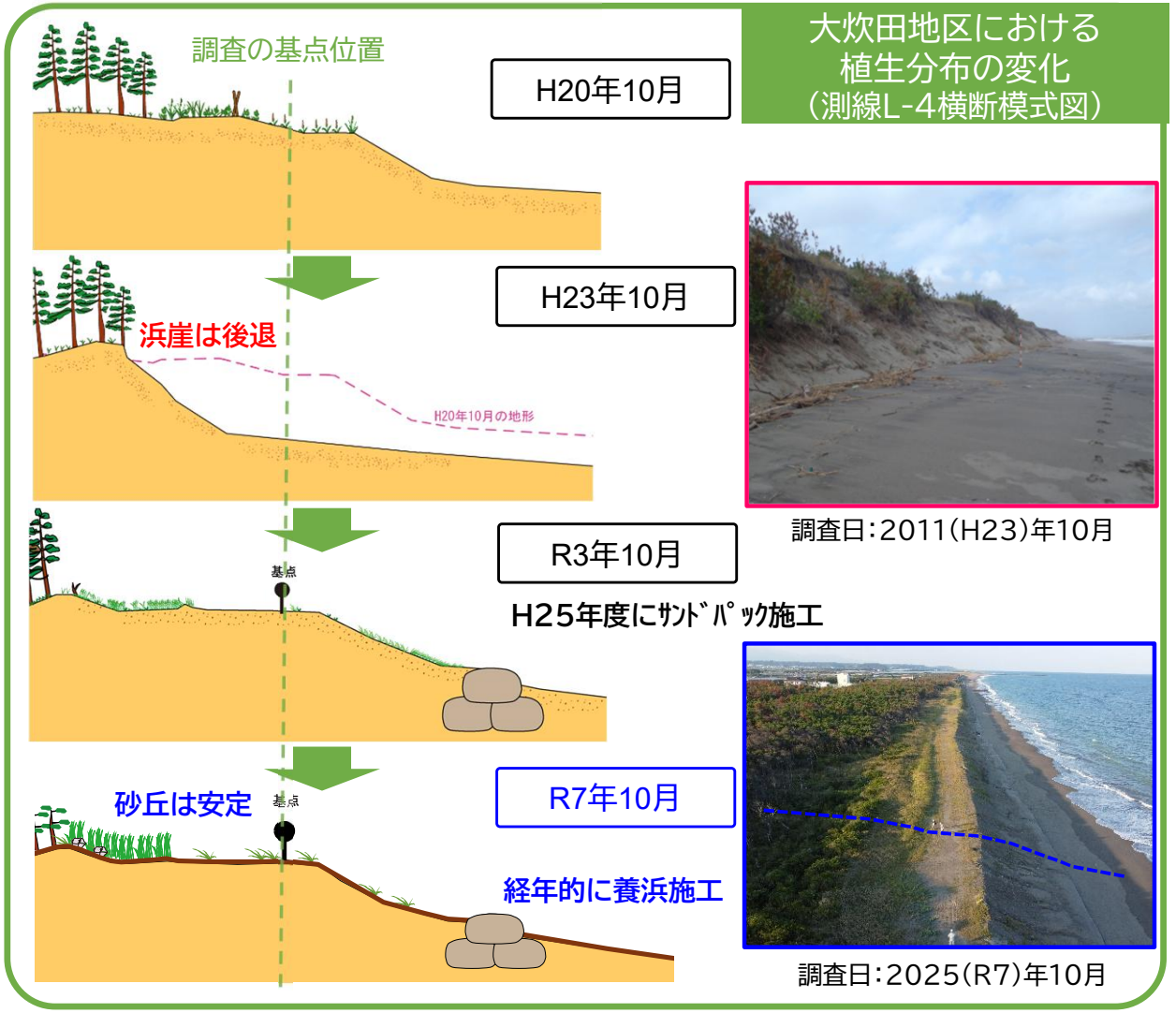
チガヤ



コウボウムギ



コウボウシバ



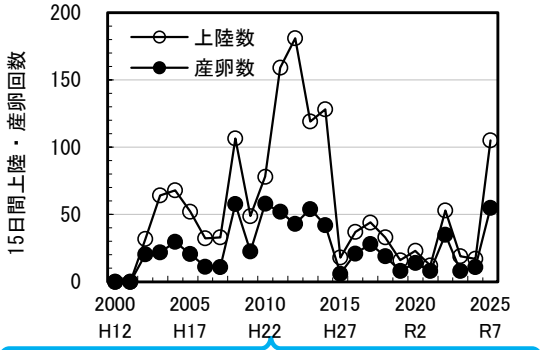
(5)調査結果　3)環境　③アカウミガメ

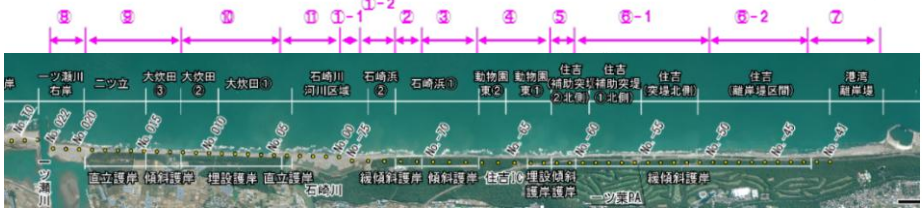
・2025(R7)年のアカウミガメの産卵状況は、7月の15日間調査(石崎浜～一ツ葉)でみると、上陸数・産卵数ともに2023(R6)年から増加した。全国的にはR6とR7は同程度である
・産卵期全期間(5～8月)の宮崎海岸全体(一ツ瀬南～一ツ葉)では、上陸355回と産卵196回が確認され、前回(2024 (R6)の257回、143回か増加した
・そのうち、埋設護岸設置範囲に上陸104回と産卵42回が確認されたが前回(2024 (R6)年)の48回、10回と比較して増加していた

宮崎海岸

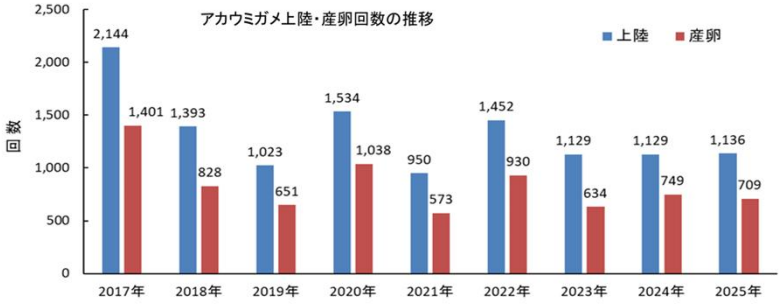
※毎年7月のうちの15日間の調査結果
※2009年以前は任意の20～50日の結果を15日当たりに換算

石崎浜以南(①-1～⑦区間)



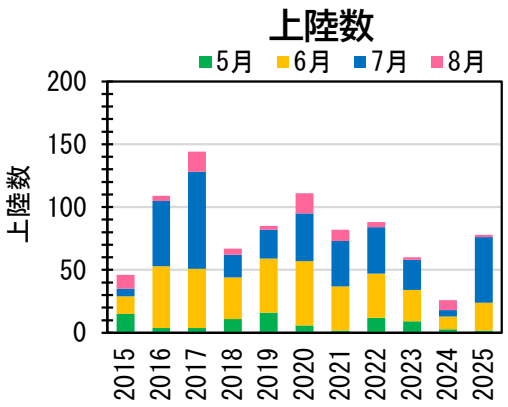


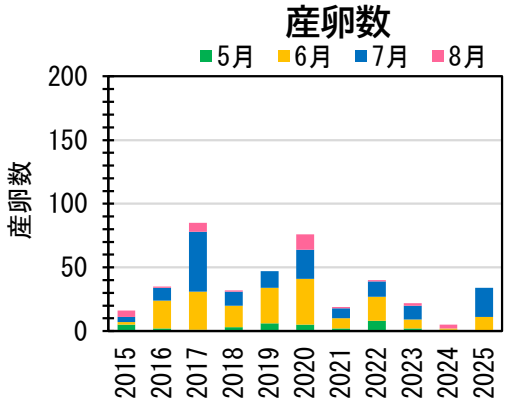
※出典:環境省自然環境局-全国32サイト調査(2026年3月)



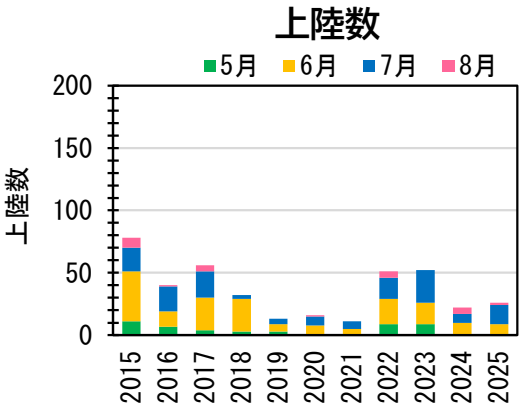
埋設護岸区間の上陸・産卵数

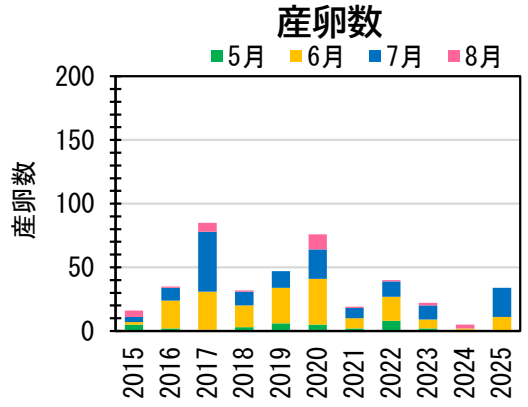
大炊田(⑩)





動物園東(④)

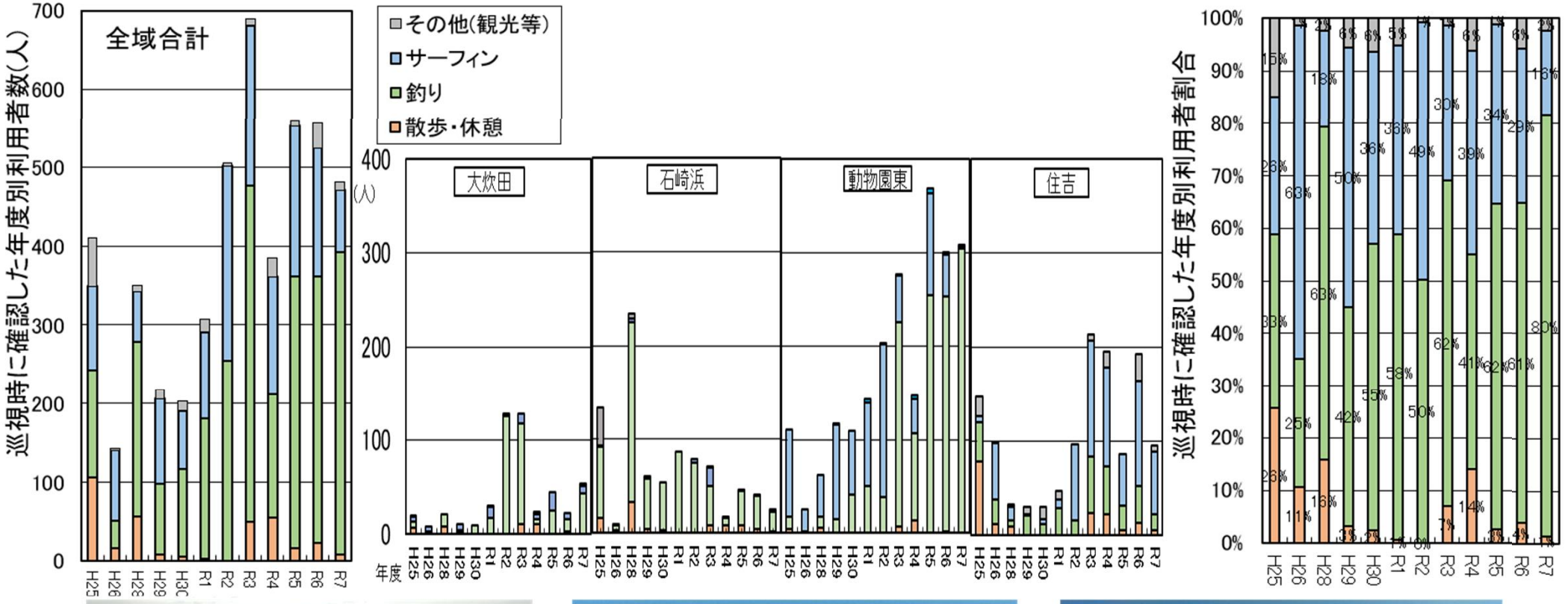




※調査結果は精査中であり、今後、変更・修正する可能性があります

（5）調査結果　4）利用

・令和7年度は、釣りの利用者が増加傾向。そのほか、これまでと同様に様々な利用を確認









※調査結果は精査中であり、今後、変更・修正する可能性があります

（6）対策の評価のポイント

【令和6年度の工事】 養浜約17万m³を実施

【これまで実施した工事】
養浜約270万m³
突堤（突堤75m、補助突堤①50m、補助突堤②50m）
埋設護岸（大炊田1.6km、動物園東1.1km）

調査結果のまとめ

【波浪】
・最大波高は4m程度（計画値よりも大幅に小）
・波の総エネルギーも小さい

【自然環境】
・海域ではこれまでと同様に多様な生物を確認
・陸域では植生がみられるが陸生植物も多い
・ｱｶｳﾐｶﾞﾒは

【地形】
・ほぼ全域で浜幅は安定もしくは前進
・住吉エリアではやや土砂が増加
・住吉エリア以外では土砂は減少

【海岸利用】
・これまでと同様に様々な利用を確認

【対策の評価（事業主体案）】
・対策の効果はあるが、対策は十分ではない
・対策による深刻な悪影響は生じていない

(7)談義の項目と進め方

■談義の項目

・対策の評価(事業主体の案)について

・最近の海岸の状況など

■談義の進め方

〇挙手形式



4. 住吉エリアの総合的な構想 【談義】

(1)今年度の事業内容

(2)住吉エリアの総合的な構想について

(3)住吉エリアのブロックの特徴のおさらい

(4)対策について

(5)制約条件の確認

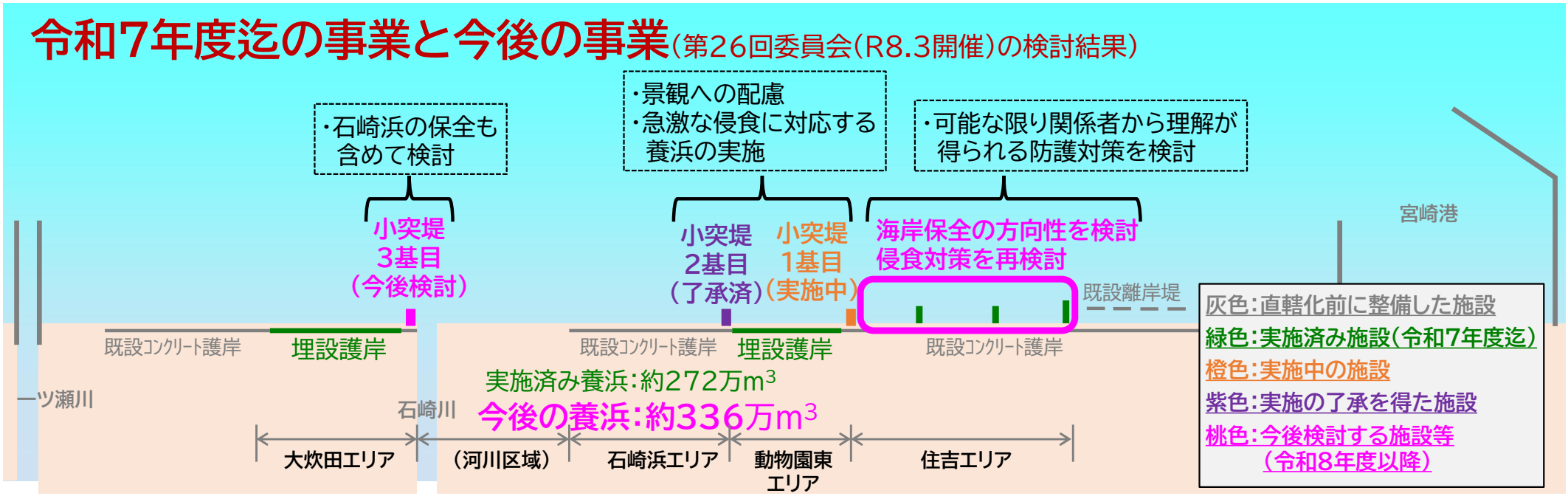
(6)談義の項目と進め方

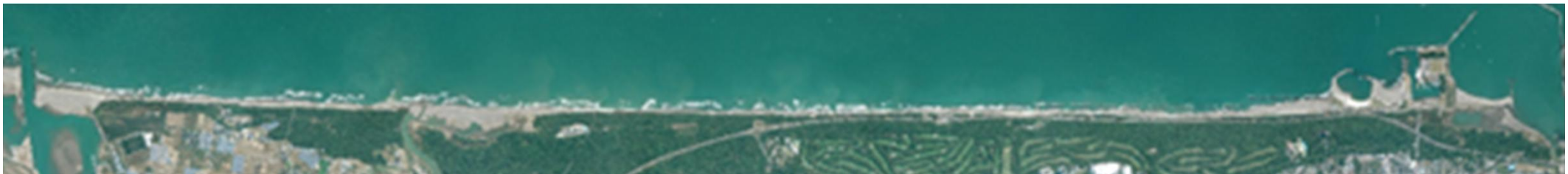
(1)今年度の事業内容

●検討:住吉エリアの保全の方向性と対策

●工事:1基目小突堤の整備, 養浜

令和7年度迄の事業と今後の事業(第26回委員会(R8.3開催)の検討結果)



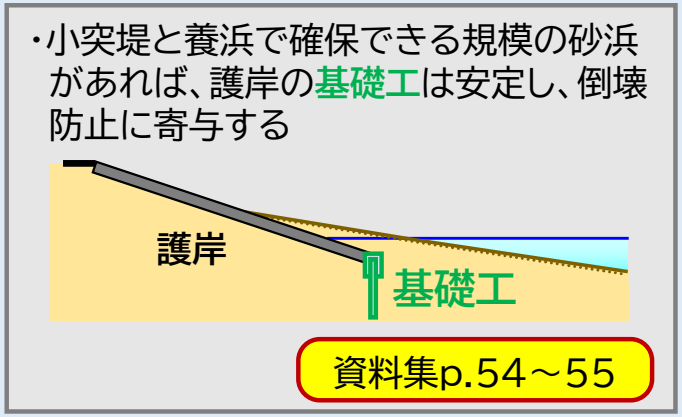


(2)住吉エリアの総合的な構想について

●住吉エリアの防護上の特徴

①小突堤と養浜で確保できる砂浜には、護岸倒壊防止に一定の効果はある





②小突堤と養浜では浜幅50mの確保は困難

③越波が生じるため、越波による被害を防ぐ対策が必要

●事務局の対策の考え方

①対策は、環境・利用・景観等に配慮した対策とする

②1種類の対策で越波を防止できない場合は、対策を組み合わせる

③国直轄事業の制約条件(予算, 期間, 技術面等)を踏まえた対策とする

④宮崎県が実施する維持管理の持続可能性を考慮する

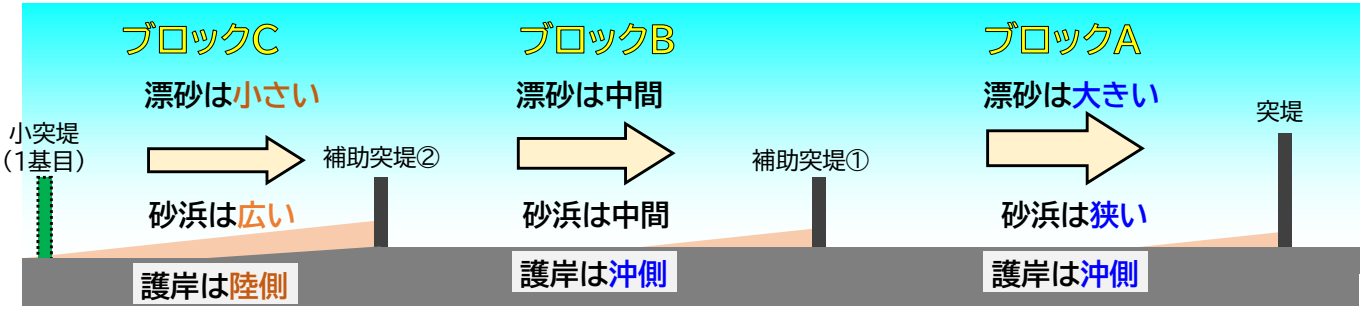
・これまでも様々な対策について談義してきたが、本日は改めて様々な対策の特徴を確認したうえで、望ましい方向性について談義したい

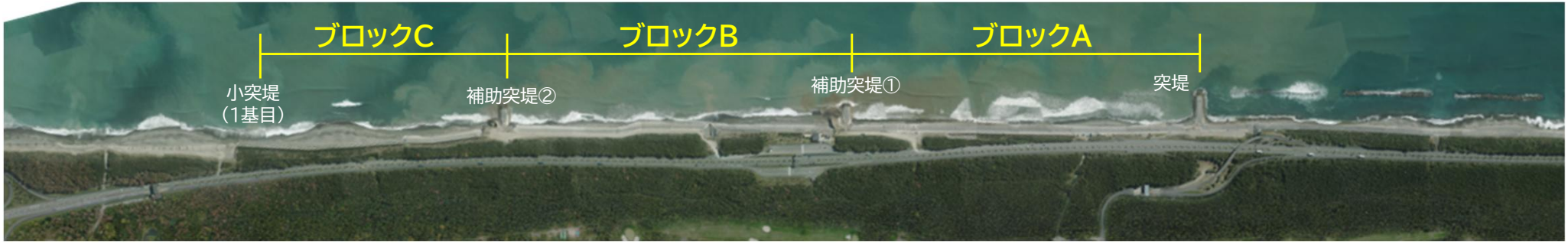
(3)住吉エリアのブロックの特徴のおさらい

・砂浜が恒常的にある状態ではないが、冬季などは突堤等の北側に砂浜が確認できる
・北側ほど砂浜が確認できる時期は多く、補助突堤②の北側はほぼ常時砂浜が存在する

●ブロック区分

項　目 （ブロック内の比較）	ブロックC 小突堤～補助突堤②	ブロックB 補助突堤②～補助突堤①	ブロックA 補助突堤①～突堤
砂の動き（量）	最も小さい	ブロックCより大きく、Aよりも小さい	最も大きい
護岸の岸沖位置	陸側である	沖側である	沖側である
砂浜	最も広い	ブロックCより狭く、Aよりも広い	最も狭い





(4)対策について　1)対策の抽出について

●対策案の抽出について

・次頁に挙げた対策は以下の観点を参考として抽出した。

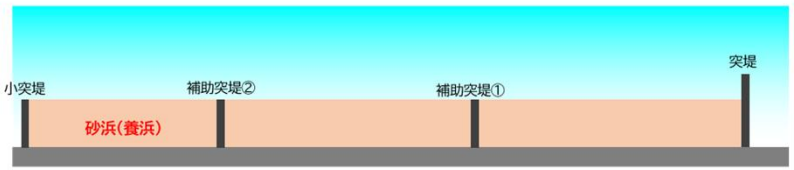
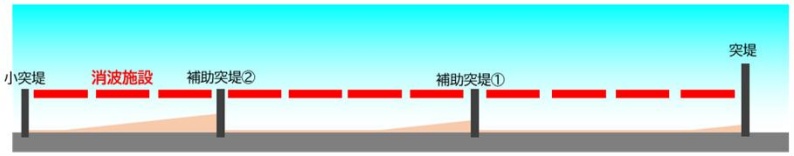
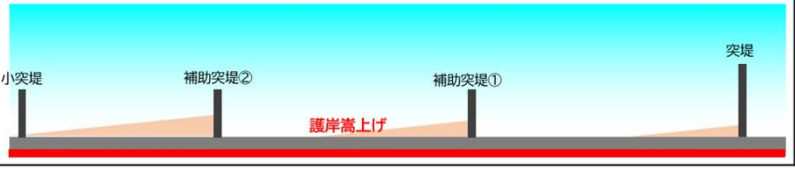
①一般的に用いられている対策

②第59回市民談義所(R7.9開催)で事業主体が提示した対策

③これまでに市民談義所で提案された対策

・ただし、事業主体として現時点で実現性が低い対策は除外している(次ページ参照)

●第59回市民談義所(R7.9開催)資料の抜粋

方策	イメージ	考え方
a)浜幅確保		・養浜により砂浜を確保し、それにより越波を防止する ・砂浜を維持する対策は、初期養浜＋維持養浜、さらには消波堤や突堤追加などが考えられる
b)波浪低減		・消波施設により波浪を低減し、それにより越波を防止する ・消波施設は、離岸堤、人工リーフが考えられる ・なお、消波施設は砂浜安定にも寄与する
c)越波防止		・護岸を嵩上げすることにより、直接、越波を防止する ・護岸嵩上げは、天端面を嵩上げする方法や、パラペットを設置するなどが考えられる

資料集p.56～60

●総合土砂管理の取り扱いについて

・「総合土砂管理による河川からの自然な供給土砂の増加」については、河川等の関係者と連携して引き続き推進する

・なお、総合土砂管理により、いつ・どのくらい海岸域に寄与する供給土砂が増えるかを想定することは現時点で困難であるため、「供給土砂が増えることを前提とした対策」については現時点では検討しない

(4)対策について　2)現時点で実現性が低い対策について

対策	考え方	現時点で実現性が低いと判断した理由
突堤延伸 (当初計画)	・突堤を延伸し、南側に移動する土砂を留めることにより砂浜を回復する	・漁業者との調整に時間を要しているため現時点では困難
養浜のみの対策	・初期養浜により浜幅50mを確保し、大量の維持養浜により維持する	・毎年の維持養浜量が莫大になるため、予算・調達の観点から実現性が低いため
ﾊﾟｲﾌﾟﾗｲﾝによる ｻﾝﾄﾞﾊﾞｲﾊﾟｽ	・港や導流堤などをパイプライン通して土砂を通過させる	・関係者との調整、維持管理、技術面、予算等の観点から実現性が低いため
人工リーフ	・水面下の施設で波を小さくする	・岸沖方向の幅で波を小さくする施設であるが、50m程度では十分な効果が期待できないため
セットバック	・護岸を陸側に移設し、砂浜をつけやすくする	・海岸の陸側には一ツ葉有料道路等があることや、利用もされており、実現性が低いため

現時点で実現性が低いと判断している対策イメージ(他海岸の事例)

ﾊﾟｲﾌﾟﾗｲﾝによるｻﾝﾄﾞﾊﾞｲﾊﾟｽ(静岡県福田漁港)



静岡県HP

人工リーフ(宮崎港)



宮崎県HP

セットバック(沖縄県嘉陽海岸)

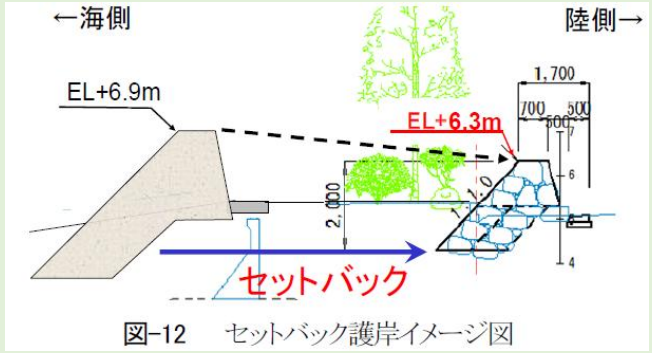


図-12　セットバック護岸イメージ図

内閣府沖縄総合事務局HP

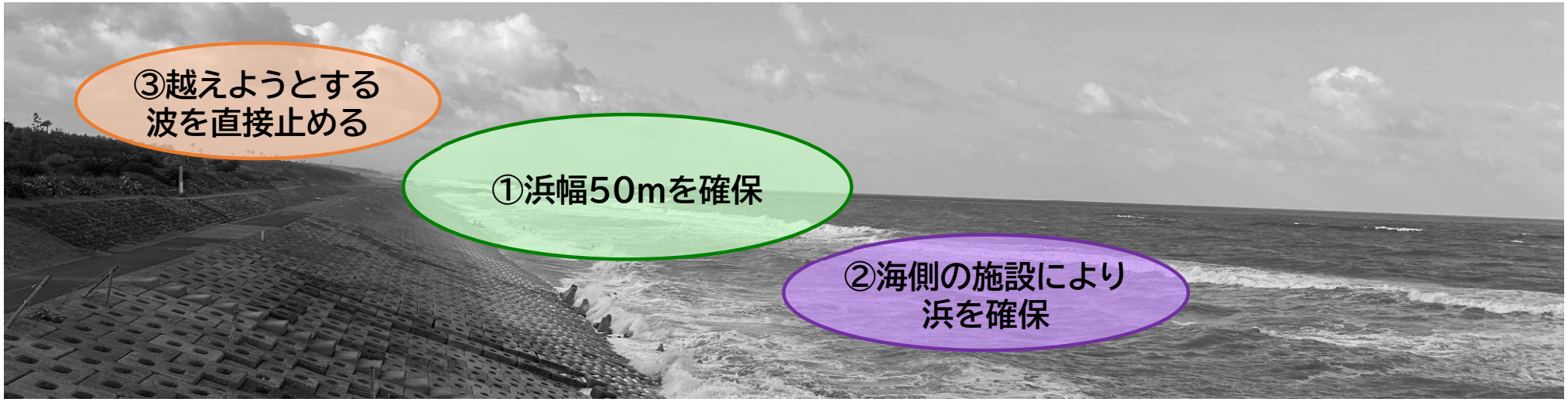
(4)対策について　3)対策の考え方

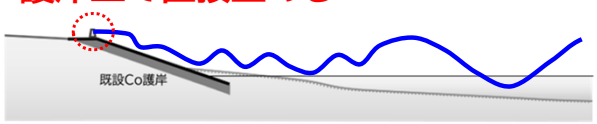
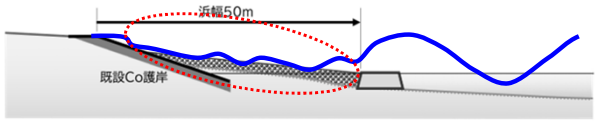
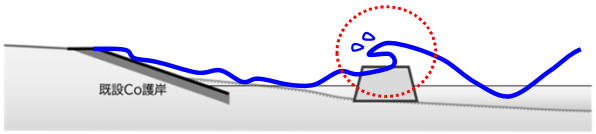
・越波による被害を防止するためには以下の対策がある

①浜幅50mを確保：浜により波を越えさせない

②海側の施設により浜を確保(浜幅50mは困難)：
　波を小さくする、もしくは砂の動きを弱める

③越えようとする波を直接止める

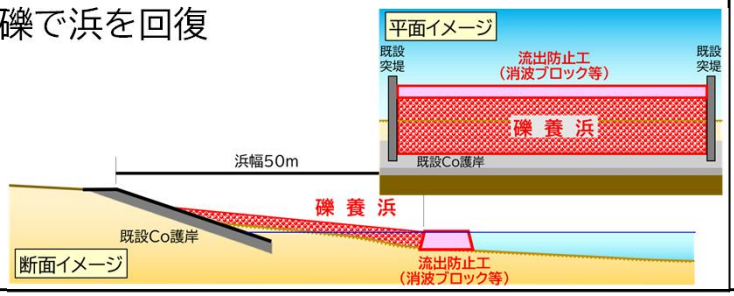


	③越えようとする波を直接止める	①浜幅50mを確保	②海側の施設により浜を確保
考え方 イメージ	越えようとする波を 護岸上で直接止める 	浜により波を越えさせない 	施設で波を小さくして 浜を確保する 

(4)対策について　4)対策イメージ　1/2

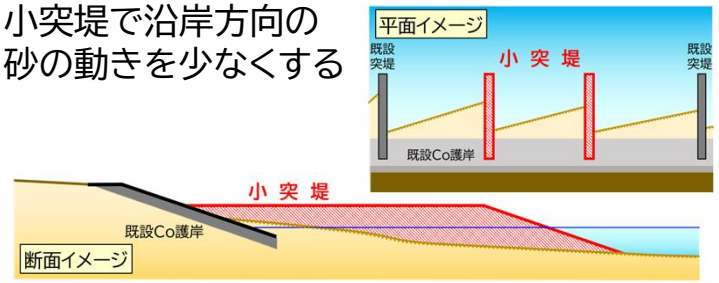
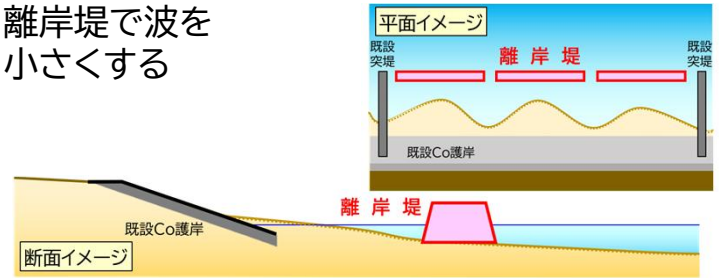
①浜幅50mを確保

散策:汀線付近，　景観:天端面から

番号	工　法	対策イメージ	対策の特徴							
			浜幅	ｱｶｳﾐｶﾞﾒ	植生	ｻｰﾌｨﾝ	釣り	散策	景観	事業上の制約・課題
1	**流出防止工付き礫養浜** 資料集p.61	礫で浜を回復 	50m確保	×	×	×	△	△	△	・礫でも大きな波では変形するため維持補修は必要

②海側の施設により浜を確保

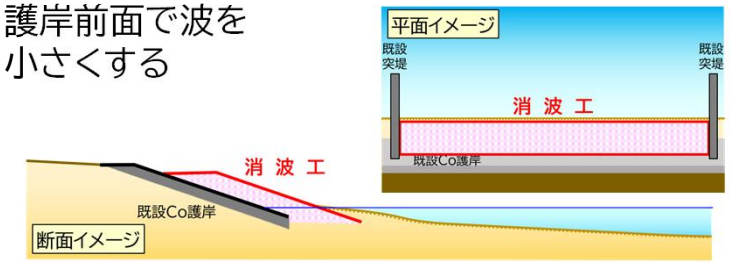
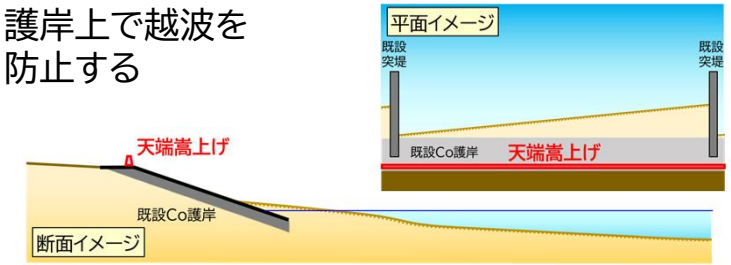
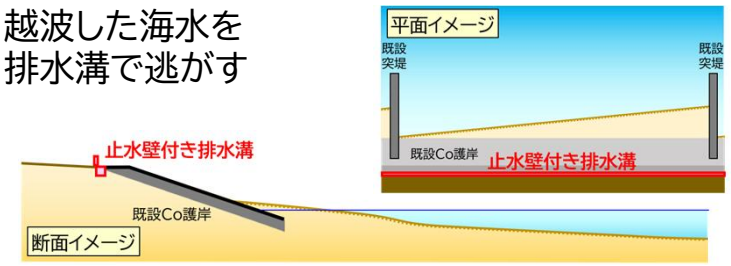
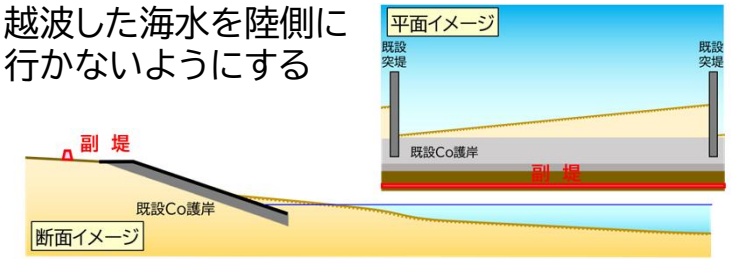
散策:汀線付近，　景観:天端面から

番号	工　法	対策イメージ	対策の特徴							
			浜幅	ｱｶｳﾐｶﾞﾒ	植生	ｻｰﾌｨﾝ	釣り	散策	景観	事業上の制約・課題
2	**小突堤** 資料集p.62	小突堤で沿岸方向の砂の動きを少なくする 	砂浜はつくが浜幅50mは困難	△	×	△	△	△	△	・砂浜の回復・維持には養浜や施設が必要
3	**離岸堤** 資料集p.63	離岸堤で波を小さくする 		△	×	×	×	○	×	

(4)対策について　4)対策イメージ　2/2

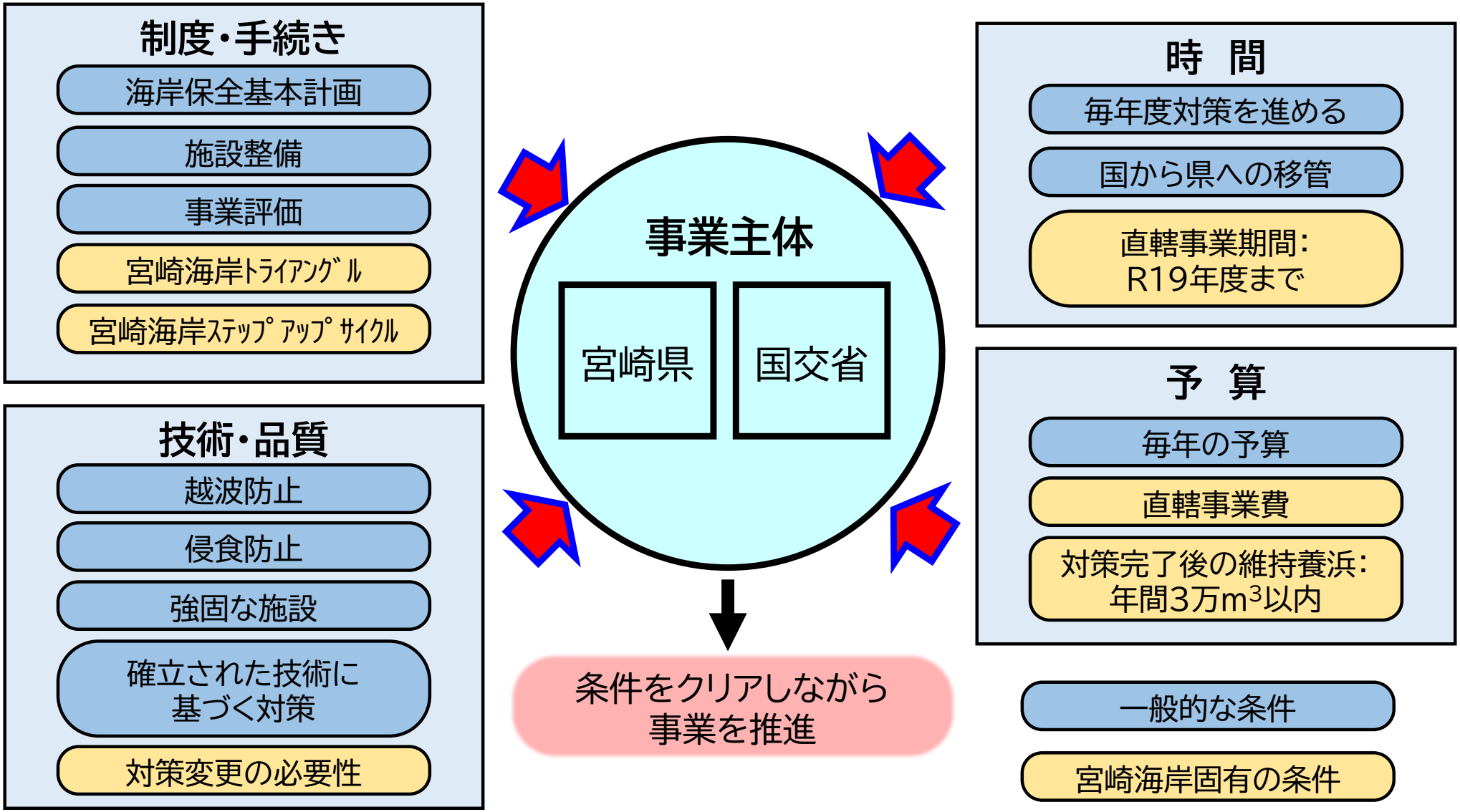
③越えようとする波を直接止める

散策:汀線付近,　景観:天端面から

番号	工　法	対策イメージ	対策の特徴							
			浜幅	ｱｶｳﾐｶﾞﾒ	植生	ｻｰﾌｨﾝ	釣り	散策	景観	事業上の制約・課題
4	消波工 資料集p.64	護岸前面で波を小さくする 	浜幅確保には効果はない	×	×	×	△	×	×	・既設Co護岸が安定するための砂浜や施設が必要 ・砂浜の回復・維持には養浜や施設が必要
5	天端嵩上げ 資料集p.65	護岸上で越波を防止する 		×	×	○	○	○	△	
6	止水壁付き排水溝 資料集p.66	越波した海水を排水溝で逃がす 		×	×	○	○	○	○	
7	副堤 資料集p.67	越波した海水を陸側に行かないようにする 		×	×	○	○	○	○	・上記の2つに加え、設置場所によっては、他機関との調整が必要

(5)制約条件の確認

「宮崎海岸保全の基本方針」と「沖合には施設を作れない」を踏まえた
宮崎海岸の事業実施のための条件のイメージ



（6）談義の項目と進め方

■談義の項目

・住吉エリアの対策の方向性について

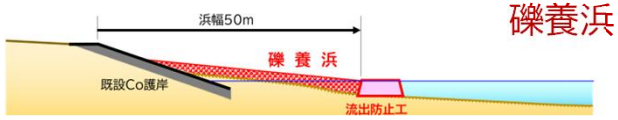
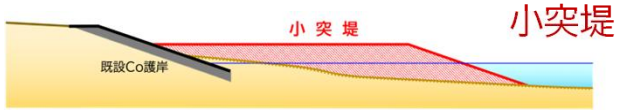
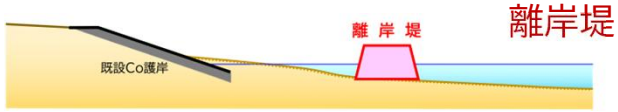
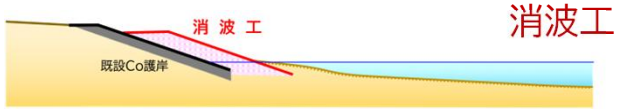
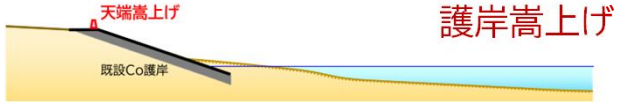
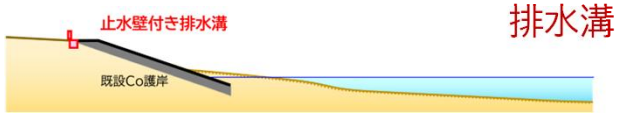
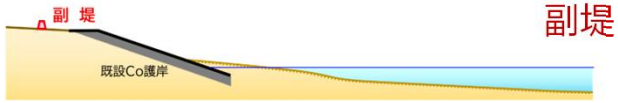
■談義の進め方

① 事務局から様々な対策の特徴などを説明
（これまでの談義のおさらいも含む）

② 住吉エリアのブロックA・B・Cごとに、
各対策に対する意見を整理表（次頁）の枠に貼る

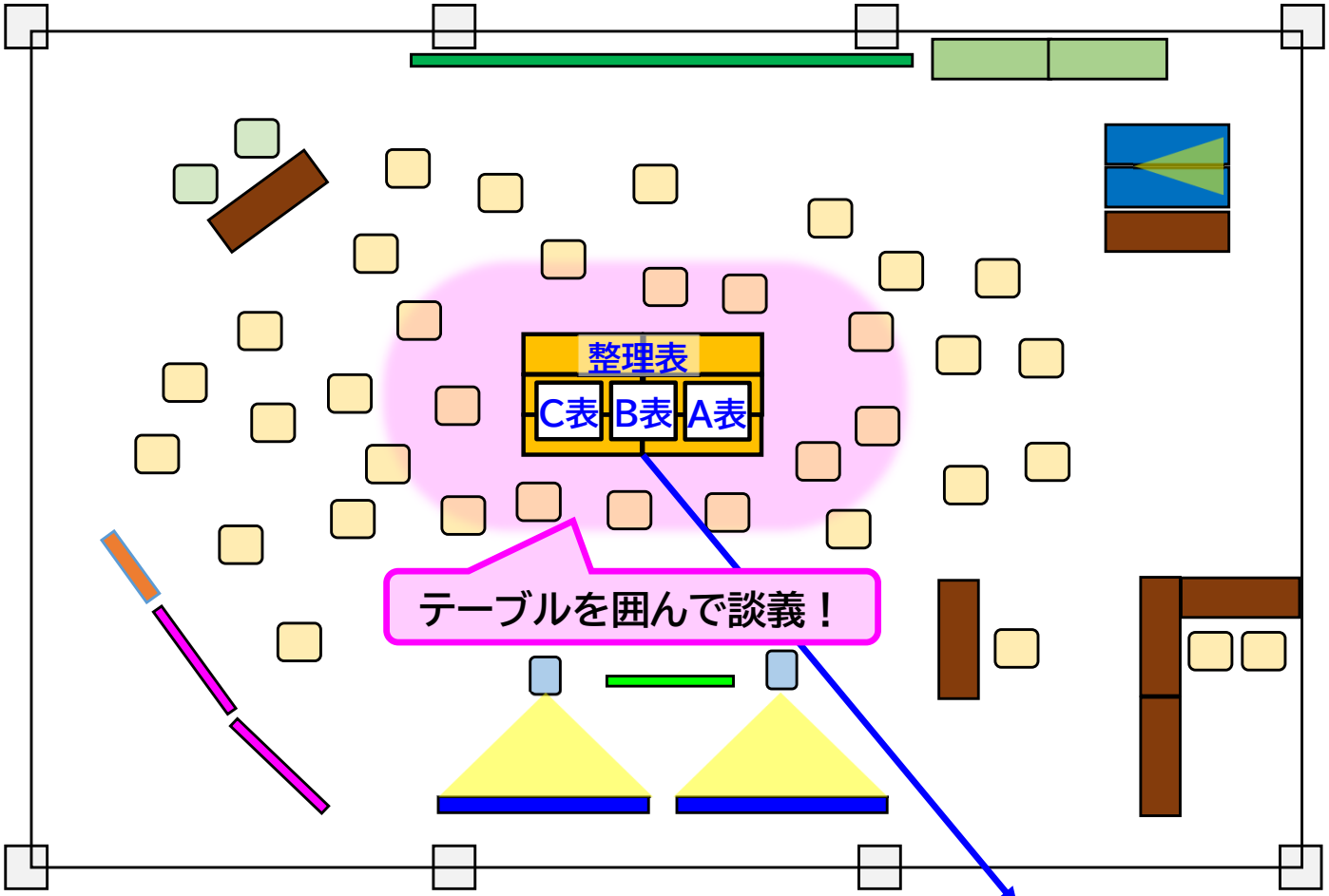
③ 意見をみんなで確認しながら談義

参考：本日の談義の整理表（ブロックAの例）

番号	対策イメージ	意見	ブロックA						
			ｱｶｳﾐｶﾞﾒ	植生	ｻｰﾌｨﾝ	釣り	散策	景観	なんでも
1	 礫養浜	望ましい 望ましくない どちらとも言えない							
2	 小突堤	望ましい 望ましくない どちらとも言えない							
3	 離岸堤	望ましい 望ましくない どちらとも言えない							
4	 消波工	望ましい 望ましくない どちらとも言えない							
5	 護岸嵩上げ	望ましい 望ましくない どちらとも言えない							
6	 排水溝	望ましい 望ましくない どちらとも言えない							
7	 副堤	望ましい 望ましくない どちらとも言えない							
	その他の工法	望ましい							



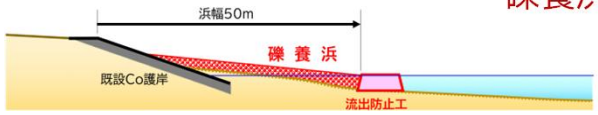
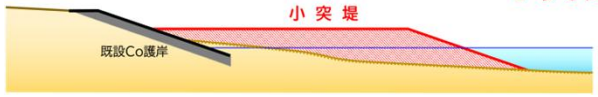
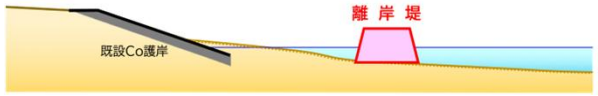
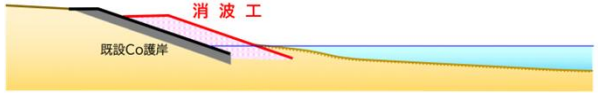
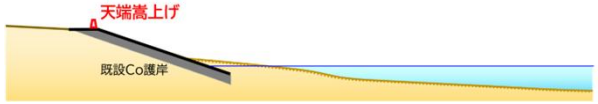
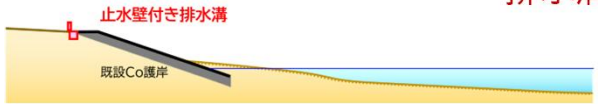
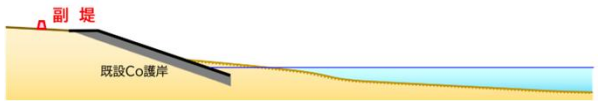
参考：談義時の会場レイアウト



- 整理表（ブロック毎）を中央のテーブルに配置します
- テーブルを囲んで談義します



参考:これまでの意見

番号	対策イメージ	昨年度の談義所での意見※
1	礫養浜 	・岸近くの土砂の質(粒径など)によってはカメが相当長い期間にわたって上陸できなくなるのでは(59) ・砂利のような粒径の大きなものは、コンクリートと同様にアカウミガメの産卵や孵化に影響が生じる可能性がある(61)
2	小突堤 	・ブロックAとBについては、突堤を複数入れることで砂浜を確保することができるのではないかと考えている(60)
3	離岸堤 	・アカウミガメの上陸・産卵に悪い影響が多いため、離岸堤はやめてほしい(59) ・現在離岸堤がある、突堤の南側にはアカウミガメは上陸しない。離岸堤の開口部にも、アカウミガメは上陸しない(60)
4	消波工 	・ほかの海岸では、消波ブロックにより事故が起きている事例もある(60)
5	護岸嵩上げ 	・目的は、背後地の安全だと思う。そのためには、護岸を嵩上げするという方法もあるとは思う(60) ・突堤整備も養浜もせずに越波を防止する方法としては、護岸を嵩上げするという方法があると思うが、このことは検討するのか(62)
6	排水溝 	[特になし]
7	副堤 	・今ある堤防よりも後の方(保安林の中とか)に必要な高さのものを設置できないのか(59)

※:()内の数字は談義所の回(第59回(R7.9), 第60回(R7.11), 第61回(R8.1), 第62回(R8.3))

参考：対策工法の組合せの事例

小突堤と離岸堤

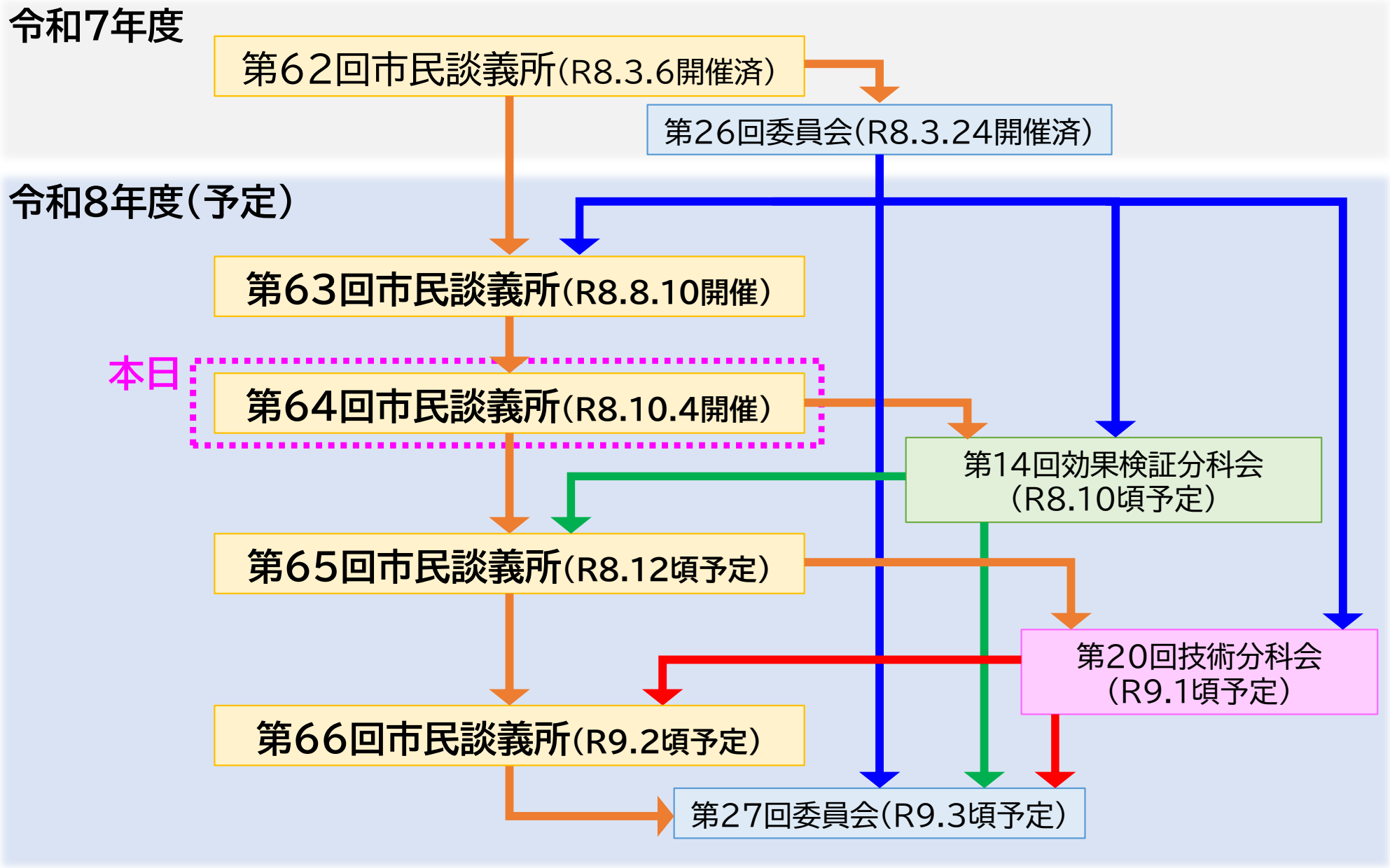




他海岸の例（新潟県新潟海岸）

5. スケジュール

(1)令和8年度の全体スケジュール(案)



※談義の内容等によりこのスケジュールは変更する場合があります

(2)令和8年度の市民談義所等の議事(案)

開催時期	会議名	主な議事
R8.10	第14回効果検証分科会	・令和7年度調査結果による効果検証 ・令和9年度の調査計画 ・住吉エリアの総合的な構想
R8.12	第65回市民談義所	・第14回効果検証分科会の報告 ・住吉エリアの総合的な構想と対策 ・第20回技術分科会前の意見
R9.1	第20回技術分科会	・住吉エリアの総合的な構想と対策
R9.2	第66回市民談義所	・第20回技術分科会の報告 ・第27回委員会前の意見
R9.3	第27回委員会	・令和7年度調査結果による効果検証 ・令和9年度の調査計画 ・住吉エリアの総合的な構想と対策

※談義の内容等により開催時期、主な議事等は変更する場合があります